

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103300
法人名	(有) ピース アンド ハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
訪問調査日	平成20年9月4日
評価確定日	平成20年11月7日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成20年 9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103300
法人名	(有) ピース アンド ハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
所在地	鹿児島市下荒田2丁目34-15 (電話) 099-213-0033

評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(20年 8月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月 30.000 円	その他の経費(月額)	1,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1.000円

(4)利用者の概要(8月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	名	要介護2	名		2 名
要介護3	8 名	要介護4	名		4 名
要介護5	4 名	要支援2	名		名
年齢	平均 85.4 歳	最低 69 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有馬胃腸科外科医院 竹迫歯科医院 坂元眼科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より少し入った市中心街の住宅地に立地しており、周囲に中学校やスーパーなどがあり利便性の良い環境の中に開設されているホームである。系列には病院もあり、健康管理面での支援体制ができていているため、利用者・家族などに安心感がある。職員は明るく、目標を高く持ち利用者の思いを大切にケアを心がけている。家族との連携を密にして、利用者の思いをひとつずつ実現させたことが自信につながり、また利用者・家族などの喜びの共有と信頼関係に繋がっている。地域資源・外食産業の活用や中学校の行事に参加したり、地域商店街や民生委員の会合に、ホームの交流室を開放し、地域との交流や協力関係を構築しながら地域に根ざしたグループホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	会議は定期的に開催されて地域の理解と支援が得られている。重度化や終末期に対しては、ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて、職員も共有できている。改善課題に真摯に取り組み改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価の意義を理解し各ユニット毎に自己評価に取り組みケアに対する振り返りの機会としてとらえている。前回の改善課題も含めて話し合い改善に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	会議は定期的に(法人内施設と合同で)開催されている。ホームの取り組み、状況や外部評価など報告し意見をもらうなど地域の理解と支援が得られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	職員は面会時や行事参加の際に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。食事は時間に幅をもたせて対応し、希望に応じたメニューにも対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、地域行事(十五夜、文化祭に作品提供をする、七夕、運動会、グランドゴルフなど)に参加している。また中学生の職場体験や定期演奏会、バザーなど幅広い交流がなされている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とし、その人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人たちとの絆を重視した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付く場所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して、確認できるようにしている。日々の支援の中で共有に努め、ケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事に(十五夜・文化祭に作品提供をする・七夕・運動会・グランドゴルフなど)に参加している。また中学生の職場体験や定期演奏会、バザーなど幅広い交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、各ユニット毎に自己評価に取り組み、ケアに対する振り返りの機会としてとらえている。前回の改善課題も含めて話し合い改善に取り組みサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的(法人内施設と合同で)に開催されている。ホームの取り組み状況や外部評価など報告し、意見をもらうなど地域の理解と支援が得られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に生保利用者の支援状況を報告している。また運営や介護用品・サービスについて相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に(月1回)ホーム便りと個別報告書を送付している。また家族などの来訪時や行事参加の際に心身の状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳で管理しコピーにて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会時や行事参加の際に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。食事は時間に幅をもたせて対応し、希望に応じたメニューにも対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員と利用者のなじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合にはダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画が作成されている。外部研修は段階に応じた研修に参加して研修報告をしている。内部の勉強会は合同で行われており、職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、定期的に(2ヵ月に1回)研修会が行われている。また他ホームの見学や情報交換等を行い交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には自宅や病院に行き面談し利用者の生活歴・思いや不安を十分に聞いている。またなじめるように見学をしてもらい、信頼関係を築き、不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添いながら、一人ひとりの得意とする事など(下ごしらえ、洗濯物たたみ、調理)してもらう中で昔の行事の風習を教わったり、個性の再発見や感謝の言葉に感動しながら支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で観察に心がけている。口頭表現やジェスチャー・言動・表情などで思いや意向を引き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴・希望を把握し、家族などの思いを聞き、担当者会議で職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、担当者会議を行い見直しに活かしている。利用者の状態変化や入退院の際にはその都度モニタリングを行い評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族などの要望に応じて、病院受診や自宅訪問など特別な外出の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の往診や受診を継続できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、家族など・医師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針も定められている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対して勉強会や日々のケアの中で常に意識付けをしている。職員採用時の誓約書もあり、利用者の尊厳を大切に、穏やかな声かけや態度で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(食事・起床・就寝・入浴)時間などその人の生活リズムを大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、調理、配膳、下膳などできる事を職員と一緒にいながら食事を楽しんでいる。また気分転換のために食器を取り替えるなどの工夫もしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴が決められているが、原則として一人ひとりの希望に応じて毎日入浴できるように準備されており利用者の清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚のエサやり、裁縫、床掃除、屋上菜園の草取りや植付け収穫、カラオケ、ぬり絵など一人ひとりの得意な事、好きな事に力を発揮してもらいながら生活できるように支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、買い物その他、外食や喫茶店、花見、地域行事への参加などに出かけて家に閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。2、3階が居室になっており、インターホンと職員の見守りで一人ひとりの行動を把握して自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導をもらいながら、地域住民・職員と一っしょに、昼間・夜間を想定した避難訓練を行っている。また災害時の備蓄も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量をチェックして状態に応じた摂取量の確保ができている。身体状況に合わせて食材の調理を行っている。また栄養バランスは定期的に栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は明るく、清潔で換気良く、広い廊下やベランダなど随所に手すりがつけられて、自立支援に配慮が行き届き、季節行事の装飾や花に囲まれて利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、ぬいぐるみ、三味線、ラジオ、置時計、神札、経典など使い慣れた物品が持ち込まれている。またのれんやマット、滑り止めなど工夫がされており、安心して生活を楽しんでいる。		